

文武併進の努力 着実に結実

明年は創立百二十周年迎える

明治六年に創立された「第四学区第十五番愛則中学」に始まる本校は、去る十月二十八日に創立百二十九周年を迎えました。創立記念日に因んで、その前日には、関東鳥城会副会長の山根眞樹生氏（一中54回）を迎えて、記念講演会を開きました。「私の履歴書―若き挫折の時代を中心に」と題して、約一時間講演いただきました。生徒達に深い感銘と人生に対する多くの示唆を与えていただきました。この紙上を借りて厚く御礼申し上げます。



山田校長

さて、現在本校の生徒数は全日制普通科一三三九人、人（国立は県一）、私立大

本年三月の進学状況は、延べ人数で公立大二八九人（国立は県一）、私立大

明治以来続いていた学校六日制が五日制に変わるのとや平成六年度から始まる家庭科男女共修に象徴され

述べる前に、まず説明しなければならぬのが会名についてである。私たち鳥取一中44回卒業生の会だから「四四会」であり、それが

この集いが開かれた、このの起りはこうだ。「61期同窓会」（会長・松田信穂前西高校長）では一昨年

私たちが「鳥取西高第5回生東京OB会」は、昭和五十二年に初の集いを開いて以来、常に四十人前後の男女

かに交流を深めています。毎年のように七月に開いていますので、「七夕会」という通称で呼んでいます。この間、富神通常務の香月巖君、西武建設御事務の岸田勝美君など、各界に

七月第一土曜日
秋のゴルフ会 九月中旬
忘年会
十一月第一金曜日
このほか随時の会合、上京者の歓迎会なども開いています。

同家政科二四三人、定時制七九人、通信制四三九人と県下の大規模校です。教職員は知・徳・体の調和のとれた人材の育成をめざし、二十三回を数える硬式野球部、全国優勝九回の新体操部をはじめとして十九の運動部、二十二の文化部が活発に活動を続けております。人生の中で飛躍的に成長する時期である高校時代を充実したものとするため、文武併進をめざし、短時間で効率的練習を心がけております。

鳥城会全体の活動とは別に、卒業年次別の同窓会の動きも活発です。逐次、会報を取り上げ、紹介してゆくことにしました。今後事務局へ一報ください。

まね薬局内に置き、地区会として鳥取、関東の二つを設け、帰郷、上京の会員があれ情報交換の意味で歓迎の親睦会を開くことにしている。

青山の尚友会館に鳥取地区十二人、関西地区六人、関東地区十八人の総勢三二十六人を集めて「東京・秋のつどい」を開いた。卒業以来初めての再会を果たす会員もあって、会場は盛り上がり、西高卒の若い会員が増

え、総勢一四七名の参加のもと盛大に行われました。また、開宴に先立って西尾沼富鳥取市長（一中57回）の「バルセロナ・オリンピック雑感」と題する講演が入ったのも従来にならぬ新しい試みでした。明年は創立百二十周年の節目の年になりますので、同窓会と学校と協議しながら記念事業を

検討中であり、今後皆様にもご協力をお願いすることになるかと思いますが、その節にはよろしくお願いいたします。

終わりに、鳥城会の益々のご発展と会員各位のご活躍・ご健勝を心からお祈りして、報告とさせていただきます。

期別の活動を拝見

その①

我が寺こそ
獅子奮迅

「獅子会」のことを申し述べる前に、まず説明しなければならぬのが会名についてである。私たち鳥取一中44回卒業生の会だから「四四会」であり、それが

この集いが開かれた、このの起りはこうだ。「61期同窓会」（会長・松田信穂前西高校長）では一昨年

私たちが「鳥取西高第5回生東京OB会」は、昭和五十二年に初の集いを開いて以来、常に四十人前後の男女

かに交流を深めています。毎年のように七月に開いていますので、「七夕会」という通称で呼んでいます。この間、富神通常務の香月巖君、西武建設御事務の岸田勝美君など、各界に

西宮向に田子園山出場の夢

―県大会で優勝・中国大会で三位―

春の甲子園出場を賭けた倉吉北高を七対一で下し、秋季鳥取県高校野球兼第七九回秋季中国地区大会鳥取県予選が十月八日から十二日まで布勢球場に二十五校が参加して開かれました。

二回戦から出場した母校鳥取西高は三対二で米子工を破り、準々決勝では米子西高にコールド勝ち、準決勝も四対〇で鳥取商を破り、決勝にのぞみました。その決勝戦では猛打が爆発し、

鳥取三原市民球場で開かれた中国大会には中国五県十代表校が参加。わが母校は第一試合で大社高を三対四のスコアで下し、次に

西高と岩国高となり、中国地方から三つの出場ワケがある選抜校の三枚目の切符を岩国高と争うことになりました。全員野球でこま

鳥取一中の関東同窓会が結成された時、ちょうど同期の故木村耕造君が西高校長を務めていた関係もあって、「獅子会」のメンバーが中心的な役割を果たしたことがある。

鳥取西高第5回生東京OB会は、昭和五十二年に初の集いを開いて以来、常に四十人前後の男女

かに交流を深めています。毎年のように七月に開いていますので、「七夕会」という通称で呼んでいます。この間、富神通常務の香月巖君、西武建設御事務の岸田勝美君など、各界に

七月第一土曜日
秋のゴルフ会 九月中旬
忘年会
十一月第一金曜日
このほか随時の会合、上京者の歓迎会なども開いています。

鳥城会総会

スナップ

於 東京駅ルビーホール
時 平成四年十一月六日



先輩、後輩が歓談に次ぐ歓談。時の経過も忘れて、懇親の宴は遅くまで続いた

総会の風景。挨拶、議事が熱っぽく続き一時間を超える総会となった

鳥取高女同窓会・翠紅会代表の紅一点が校歌を披露して、会場に色を添えた

ふるさと鳥取ファンクラブ
会員募集中!!

情報誌はピカ一

各日様の情報誌「鳥城」

ふるさとを離れて時が経つにつれ、いつの間にか疎遠になっていくのは、仕方がないこととはいえ、寂しいもの。そんな思いを抱いている方に故郷のかおりとホットニュースを運んでくれるのが「ふるさと鳥取ファンクラブ」です。

これは、鳥取県の外郭団体である鳥取21企画センターが主宰するもので、会員になれるのは、現在、県外に住んでいて、鳥取県に興味・関心のある人。必ずしも鳥取県出身者でなくてもよく、ちなみに目下約三万五千人いる会員の内、20・30%は県出身者以外の人だということです。

会員の義務は①機会あるごとに鳥取県を宣伝する②鳥取県特産品の愛用に努める③会費(二年間一千元)を納めること。以上の資格

も義務も、鳥城会の会員諸氏にとっては、当然すぎるくらいのことでしょう。

「鳥取ファンクラブ」に入会を希望される方は、鳥取21企画センターか、県東京事務所へお問い合わせを。申し込み書を兼ねた郵便振替用紙が届き、申し込み後一カ月ぐらいで会員証として特製テレホンカードが送られてきます。

会員には県内の協賛旅館、ホテルや協賛商店での料金「取ファンクラブ」で驚いて

情報誌「鳥取NOW」の素晴らしい写真と垢抜けた編集で、鳥取の魅力を再認識させてくれます。離れていても気になる故郷の「鳥取NOW」の素

古川経家公銅像建立に協力

羽柴秀吉との鳥取城の戦いで、城に籠もる多くの兵と民を救ったため、自刃した古川経家公の遺徳をたたえて、久松公園内(予定)に銅像を建てることになり、いま募金が行われている。

天正九年、天下制覇の野望に燃える織田信長は、秀吉に鳥取城攻略を命じ、三万の大軍が城を徹底した兵糧攻めにした。これに対し毛利方では古川経家を城督に任じて防戦に努めたが、

かなわず、城内は餓死寸前となったため、経家公は自らの命を犠牲に多くの入道ちを救った。

銅像は直系の子孫の顔や古文書を参考にイラストレーター毛利彰氏(西高5回・鳥城会会員)が描いた像をもとに、彫刻家奥谷俊治氏(北条町在住・日展

題字は天下の逸品?

題字「鳥城会会報」の揮毫は渡辺会長、イラストは丹宣伝部に勤務のあと独立。曾野綾子の連載小説「神の汚れた手」(朝日新聞)や「天上の青」(毎日新聞)の挿絵、奈良シルクロード博のキャンペーンポスターなどを手がけた俊英イラストレーター。五十七歳。

毛利氏のプロフィール

西高5回生。在学中から一水会に属し、県展にも数

編集後記

突貫工事でしたが、会報第一号が完成。ご協力に感謝あるのみ▼もともと、ワープロ編集の版下を簡易印刷機にかけただけの代物。カワラ版と称した方がよいかも知れませんが、写真のどきが悪く、事情をご賢察のうえ、お許しを▼体裁は悪くとも、立派な会報にする道は内容の充実しかありません。皆様からの玉稿を期待するところ大です。(中野記)

◆問い合わせ先 鳥取21企画センター ☎0857(2)8305 / 鳥取県東京事務所 ☎03(32663)6751 (三角幸子記)

◆制作する。完成は来年春を予定している。建立のための募金の目標は二十万円。金額の多少にかかわらず、だれでも拠出でき、募金した方にはお礼として一万円ごとに栗山浩介(元日本海新聞主筆・編集局長)著「久松戦記」が送られるそうです。

◆問い合わせ先 鳥取市本町三丁目一〇二 鳥取商工会議所内 古川経家公銅像建立委員会 事務局 (☎0857・266・6666)

◆発行所 鳥城会事務局 ☎03・3442・2221

◆発行責任者 中野 純(副会長)

◆編集委員会 川口 義男(58回) 横山 豊(61回) 林田 達郎(西5回) 三浦 三郎(事務局長) 三角 幸子(西15回)

